



そろばんは、私の子ども時代を 彩ってくれた

奈良女子大学生生活環境学部3年 坂本 遥

初めまして、こんにちは。坂本遥と申します。私は現在、奈良女子大学生生活環境学部食物栄養学科3年生で、管理栄養士になるために学業に励んでいます。今は奈良で一人暮らしをしています。地元は長崎県です。私がそろばんに出会い、どんな日々を送っていたのか、そして今の自分にどう繋がっているのか、言葉を紡いでみました。

私がそろばんを習い始めたきっかけは、両親がそろばん教室の体験に連れて行ってくれたことである。当時、私は7歳。その時の記憶は残っていないが、とにかく楽しそうに体験していたようだ。体験を終えて、そろばん教室に通うことが決まり、週3回、学校終わりに、小学校から歩いてそろばん教室に通うようになった。習い始めて少し経った頃、かけ算九九を短時間で覚えたことが記憶に残っている。家のお風呂で声を出しながら、必死にがんばっていた。すべて暗記できて、先生に披露できた時にはとても嬉しかったことを覚えている。その時から「負けず嫌い」な心と「一生懸命がんばる」心が、私の中でぐんぐん成長していたのかもしれない。

結果として、中学3年生までそろばんを続けた。この8年間を通して、そろばんに出会ってほんとうに良かったと、心から思っている。どうしてそう思うのか、その理由を話してみようと思う。

そろばん教室に入ると、「こんにちは〜!」と先生方が迎え入れてくださるところから、その日の練習は始まる。私は、この教室が大好きだった。大会に出るようになってからは、先生のご指導のもと、必死になって練習した場所でもあるし、練習が終わってからの時間は、先生や教室の友達と楽しくお話しした空間でもある。そろばんは一人で練習することもできるが、仲間と一緒に練習するからこそ、上達が早くなる。切磋琢磨しながら、

大会に向けて練習した日々が本当に懐かしい。この経験を通して、仲間の大切さを学んだ。人それぞれ得意・不得意はあるが、お互いに良い部分を見つけて吸収することで、成長していく。これは、大学生になった今でも大切にしていることであるし、そろばんを習って良かったと思う理由の一つである。二つ目に、「一つの物事に本気で打ち込む経験」ができたことである。そろばんには、正確さとスピードが同時に求められるため、集中しないとミスが連発する。大会に出るとなると、より高い集中力が求められる。だからこそ、やりがいを感じていた。練習すればするほど、結果に現れた。「本番のように練習すること」「本気で練習して、それを継続すること」これを小学生のうちから経験できたことは、今の自分に大きくつながっているように思う。三つ目に、本番や緊張に強くなったことである。そろばんの大会の緊張感は、他にはないものだと思う。あの緊張感の中、そろばんをはじき、計算を進めていく。何度も大会に出ることで、いつの間にか本番に強くなっていた。

今後、そろばんをはじく機会はないかもしれない。だけど、そろばんを通して培ったものは、今も私の中に確かにある。これからも、そろばんを通して身に付いた力をバネに、私は向上心を持ち続けて、成長していく。

最後に、私と本気で向き合ってください、熱心にそろばんを教えてくださいました先生方には、心から感謝を伝えたいです。身に付いたのは計算力だけではなくありません。私の人間性も、そろばん教室で大きく成長したと思っています。そろばんは辞めてしまいましたが、大学生になった今でも、長崎に帰ると先生方には会いに行きたくになります。それほど、私にとって大切な出会いであり、大切な思い出です。